林業普及現地情報
2012-19 号（通算 178 号）
平成２５年３月２６日
県北広域振興局林務部
記述者　　高芝 俊雄

集約化に向けた先進地調査について（南部アカマツ振興センターの取組）

南部アカマツ振興センターでは、復興需要や木質バイオマスなど川下の需要動向に対応し、循環利用できる森林づくりを目指すため、森林経営計画を見据えた集約化や地域材のブランド化等に関して静岡県の取組を調査しました。

１　天竜地域（静岡県西部）の取組

(1) 天竜地域は、森林施業に関する意識が高く、良質なスギ材が生産されることから、架線によるＡ材主体の素材生産と付加価値の高い製材が行われてきた一方、Ｂ・Ｃ材の販路拡大が遅れていました。現在、路網と機械化による生産を進めるとともに、23 年度より県森連と森林組合等が天竜材安定供給連絡協議会を設立し、市場を経由しない直送に取り組み始めました。合板需要の伸び悩みや西日本の価格低迷により思うような販売はできなかったとのことでしたが、販路拡大に向けて、県森連のコーディネーターが全国へ営業を展開しています。

(2) 天竜地域の㈱フジイチは、植林から製材まで手がけ、年間２万m^3を伐採する老舗の事業体です。積極的な情報発信を行い、若い世代の雇用、林業体験ツアー、顧客確保等につなげている他、協同組合による乾燥材生産やグレーディングにも取り組み、Ａ材による単価の高い製品作りに取り組んでいます。

また、森林組合へ森林経営計画策定を提案、地域の座談会にも参加しながら地域を取りまとめ、資源の継続的な確保を図っています。

富士森林組合古川専務（中央）と意見交換

２　富士地域（静岡県東部）の取組

(1) 富士地域は、富士山麓の緩傾斜で高齢級のヒノキが多い地域です。富士森林組合では、16 年度から提案型施業による低コスト生産を目指した取組を展開し、19 年度林業労働力確保育成事業体として農林水産大臣賞を受賞するなどその取組が評価されています。

集約化のターゲットとなるエリアを決めると、ダイレクトメールによる案内から契約まで１年近くを費やして集約化を進めます。そのため森林調査士や森林施業プランナーなどスタッフの養成に力を入れているとのことでした。

(2) 富士ひのき加工協同組合は、富士ヒノキ専門の工場として設立されました。流通関係者・工務店と連携したブランド化に向けた取組を展開するほか、製紙会社と連携した SGEC 材の生産にも取り組んでいます。

３　調査を終えて

両地域ともシカの食害が多く、素材生産のほとんどは間伐によることから、森林経営計画策定に意欲的な考え方を持っています。

集約化に向け、森林組合が提案する場合と民間が森林組合をけん引しながら提案する場合と２つの事例を調査しましたが、いずれの場合も情報発信の重要性を意識しており、地域に一定の信頼があるとの印象を受けました。

なお、両地域とも、今後増大する素材の需要先確保と、間伐後の皆伐・再造林においてどのような森林を目指すかが今後の課題と言えそうでした。